

深夜に。ピアノで曲づくり

医者

養生



自宅を兼ねた三角屋根の医院は、ゆったりとした待合室に子どものための遊び場があり、車いすでも診療可能なバリアフリーになっ

ている。「地域のホームドクターにこの思いがある」。11月には開業10年を迎える。「対話のある医療」を診療の基本にしてきた。電子カルテや画像などデジタル情報を使い、患者に病状をわかりやすく伝える。

病気を早く理解してもらえばその分、患者との会話に時間を充てられる。病

気のことだけでなく、天気や地域のこと。話題は何でもいい。

「言葉を交わしたふれあいがないと、診療に潤いがなくなってしまう」。地域には話し好きのお年寄りが多く、人情も深い。「こういう地域で仕事ができることは幸せ」と感じている。

治療にいて最近気になるのは、花粉症患者の増加

だ。県内は花粉の飛散量が他県に比べて多い。食事を始めとする生活スタイルの変化も一因とみている。「外から帰ってきたらほこりを落とす。当たり前のことだけど、しっかりとやることが大切」

深夜、ヘッドホンをつけて電子ピアノを奏でる。5歳からクラシックを習い、最近ではジャズが主流だ。

旅先で浮かんだメロディやノートに書きためたテーマを基に曲にしてい

く。「やさしい時間の中で」「夢の続き」など自作の50曲は、医院の公式サイト「ピアノのページ」で公開する予定だ。

近くの病院で、1人でピアノを演奏してきた。「入院生活は味気ない。音楽を聴いて少しでも楽しい気持ちになってもらえれば」。医師会の音楽仲間と慰問演奏会を開くのが、次の目標だ。

(大久保泰)

大坪耳鼻咽喉科

おおつぽ としお
大坪 俊雄さん(51)



「ピアノのほかに、一瞬を切り取る写真の魅力にもとりつかれている」。最近は主に街や花にレンズを向ける＝静岡市葵区田町2丁目

大坪耳鼻咽喉科 静岡市葵区田町2丁目(☎054・205・1139)。水曜と土曜の午後、日曜、祝日が休診。福井医科大学(現福井大学)大学院修了。公式サイトは、<http://www.e-jibika.jp/>

◇今回は「ちやいるど齒科医院」(伊東市)の板倉和彦さんです。